

2018年5月17日

各 位

会社名 株式会社 キャンパス
代表者名 代表取締役社長 河邊 拓己
(コード番号:4575 東証マザーズ)
問合せ先 取締役最高財務責任者兼管理部長
加登住 真(電話 055-954-3666)

CBS9106(SL-801)に関するASCO年次総会での発表について

当社が創出し2014年12月に米国Stemline Therapeutics Inc.(以下「Stemline社」)へライセンス導出した抗癌剤候補化合物CBS9106(同社における開発コード:SL-801)について、2018年6月1日から5日までシカゴで開催される米国臨床癌学会(ASCO)年次会議においてポスター発表がおこなわれることとなり、本日その概要(抄録)がASCOウェブサイト公表されましたので、お知らせします。

今回のポスター発表は、現在Stemline社が実施している固形癌を対象としたSL-801臨床第1相試験の途中経過報告です。

同臨床試験の内容は下記(ClinicalTrials.gov)をご参照ください。

<https://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT02667873>

今回公表された抄録(http://abstracts.asco.org/214/AbstView_214_229823.html)には、2018年1月6日までに組入れられた31症例について、以下の報告が掲載されています。【注:当社による参考訳です。】

6月4日(現地時間)のポスター発表では、少し新しい情報が追加掲載されると予想されます。

症例の内訳

- ✓ 既治療歴あり(最少1～最大11の既治療歴)、うち71%は2以上の既治療歴
- ✓ 31症例の内訳は、16名が女性、年齢の中央値63歳 [最年少39歳～最高齢76歳]

安全性・薬物動態

- ✓ 用量規定毒性(DLT)は見出されておらず、最大耐量(MTD)には到達していない
- ✓ フォローアップ期間の中央値は1.4ヶ月(最短0.2ヶ月～最長8.5ヶ月)
- ✓ 用量依存的(用量を増やすと数値が上昇する)なCmaxとAUCの上昇が観察された
- ✓ 頻繁に表れたグレード1～2の治療関連有害事象(TRAЕ)は、吐き気(45%)、嘔吐(32%)、下痢(19%)、倦怠感(26%)、食欲減衰(19%)
- ✓ グレード3のTRAЕは、吐き気(n=3; 40, 45, 50mg)、嘔吐(n=1; 45mg)、下痢(n=2; 10, 50mg)、急性腎障害(n=1; 30mg)、好中球減少症(n=1; 10mg)
- ✓ グレード4・グレード5のTRAЕはなかった

有効性

- ✓ 9症例で3サイクル～12サイクル超の期間の病勢安定(SD)
- ✓ 5症例(胃食道結合部癌・大腸癌・神経内分泌癌・基底細胞癌・乳癌)で4ヶ月以上のSD
- ✓ X線撮影で10%を上回る腫瘍縮小が3症例で観察された

まとめ

- ✓ SL-801は進行固形癌で高い忍容性を示し、症例の29%でベストレスポンスとしてSDを達成した。
- ✓ 至適用量と投与方法を決定するための用量漸増試験が続けられている。

この報告について当社社長河邊拓己は次のようにコメントしています。

「提携時に期待したとおり、Stemline社は堅実に臨床試験を進めており、また、想定外の副作用を見ることなく1日55mg、4日連続投与が出来ていることを喜んでいきます。

今年1月時点で29%の病状安定を観察したことも、容量漸増試験の途中経過としては良い状況だと考えています」

本件による当期業績への影響はありませんが、導出先Stemline社におけるCBS9106(SL-801)開発の着実な進捗を示すものであり、現在当社が進めているCBS9106の日本・中国・台湾・韓国(Stemline社へのライセンスでは除外されています)エリアでのライセンス導出交渉への好影響が期待できるほか、当社の中長期的な企業価値の向上に寄与するものと考えています。

以上